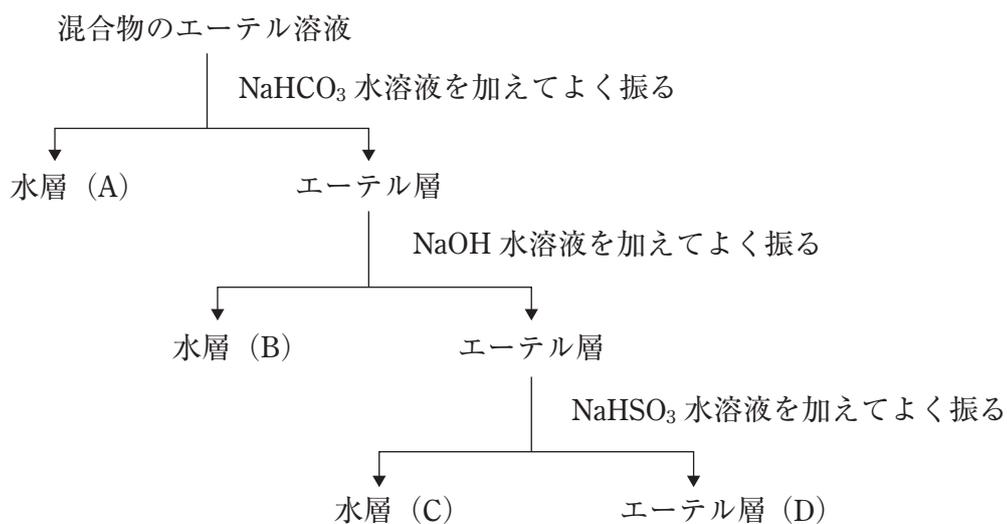
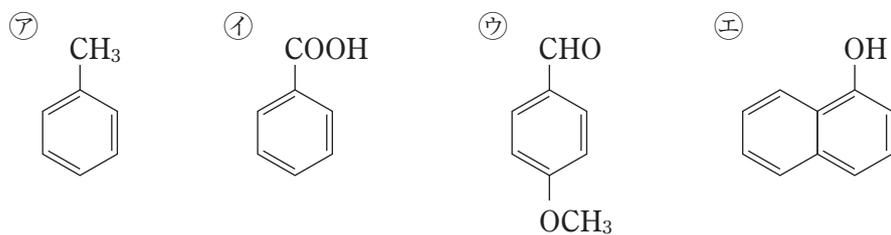


㉗～㉛の化合物の混合物をエーテルに溶かし、図の操作方法に従って分離した。図中の(A)～(D)に分離される化合物の組合せとして妥当なのはどれか。



- | | (A) | (B) | (C) | (D) |
|----|-----|-----|-----|-----|
| 1. | ㉘ | ㉙ | ㉛ | ㉗ |
| 2. | ㉘ | ㉛ | ㉗ | ㉙ |
| 3. | ㉘ | ㉛ | ㉙ | ㉗ |
| 4. | ㉛ | ㉘ | ㉗ | ㉙ |
| 5. | ㉛ | ㉘ | ㉙ | ㉗ |

微生物酵素の産業利用に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

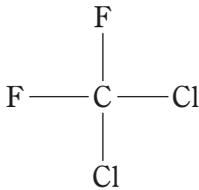
1. アミラーゼは、医療分野において血栓溶解に用いられている。
2. グルコースオキシダーゼは、乳製品製造分野においてチーズフレーバー付与に用いられている。
3. トランスグルタミナーゼは、食品用のタンパク質加工分野において物性改良に用いられている。
4. ラッカーゼは、燃料アルコール製造分野においてデンプン質液化に用いられている。
5. リパーゼは、化成品製造分野においてアクリルアミド製造に用いられている。

表は、モントリオール議定書に基づく先進国に対するオゾン層破壊物質の削減スケジュールを示したものである。化合物群Cに含まれる化合物として、正しいのはどれか。

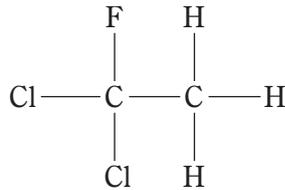
表. モントリオール議定書に基づく先進国に対するオゾン層破壊物質の削減スケジュール（一部）

物質名		先進国に対する規制スケジュール	
A		1996年以降	全 廃
B		1994年以降	全 廃
その他のクロロフルオロカーボン		1996年以降	全 廃
1,1,1-トリクロロエタン		1996年以降	全 廃
C	消費量	2020年以降	全 廃（既存機器への補充に関する例外あり）
	生産量	2020年以降	全 廃（既存機器への補充に関する例外あり）

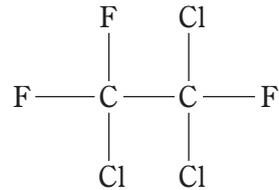
1.



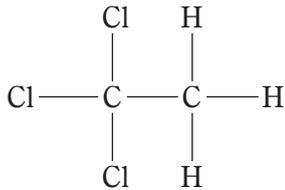
2.



3.



4.



5.

